

V.G 概輪だより

会報 第153号
発行日 平成29年7月1日
発行・編集 V・G 概輪
代表者 大岡成一
<http://web1.ibj.co.jp/~kirin>

わがまち紹介

昆陽池・伊丹昆虫館

清酒発祥の地を訪ねる 伊丹市昆陽池 鴻池

6月15日梅雨時期ですが晴天の日、昆虫館では、学芸員の方に次から次への質問に丁寧に説明して頂きました。

伊丹の清酒の発祥の地の案内は、伊丹市文化財ボランティアの会の会長松田さん他二名の方に、丁寧に説明して頂きました。本当に有難う御座います。

伊丹市

大阪国際空港の滑走路の大半を擁する20万人都市で、大阪・神戸の衛星都市、ベッドタウンの一つとされています。

気候は温暖で、冬には昆陽池などにカモなど多数の渡り鳥が飛来する。伊丹に関連の深い、猪名



昆陽池公園と野鳥観測橋

部「猪名県」などは『日本書紀』に表れる。古くは「撰津国」の「西撰」と呼ばれた地域です。

伊丹では、古くから米作りがさかんでした。そのため、昭和35年頃からの高度経済成長期までの農業用のため池がたくさんあり、川や池から水を引く小川や水路が、あ

みの目のように広がっていました。北部では、庭木栽培なども行なわれていました。

昔の伊丹には、こういった田んぼや畑、ため池などをすみ場所にする生き物がたくさんいました。

昆陽池

8世紀前半に奈良時代の高僧行基が築いた池で、長い間地域の田畑を潤すとともに洪水を防いできました。

伊丹では、昆陽上池・同下池・院前池など5つの灌漑用水池や2本の溝をつくったほか、昆陽

寺の前身となった昆陽布施屋を開き、多くの村人・旅人を飢えや病気から救ったと考えられています。のちに行基は、東

大寺大仏の建立に協力して大僧正となり、人々

から菩薩と称えられました。

伊丹市昆虫館

小さな命の鼓動が聞こえる伊丹市昆虫館は、兵庫県伊丹市の昆陽池公園敷地内にある日本の昆虫館です。



昆虫館展示200倍に蜜蜂

平成2年に伊丹市の市制50周年を記念して開館した。日本人は、世界でも珍しく、昆虫と身近に生きている人種なのだとか。万葉の昔から書物に登場するし、昆虫で季節を感じます。

「一寸の虫にも五分の魂」なんて、昆虫の命の尊さを考えるのは日本人くらいですよ。だからこそ、種類や生体を見るだけでなく、昆虫を通して自然の奥深さ、命の大切さなどを学んでほしい」と奥山さんは言います。

チョウ温室では南国の花々が咲き誇る中を舞う、約14種千匹のチョウ

の姿を身近に見ることが出来ます。また、昆虫の世界を10倍に拡大したジオラマや、珍しい世界の昆虫標本、図書コーナーなどもあり、虫や自然環境について楽しく学べます。

鴻池神社

もとは蔵王権現を祭っていた社でしたが、明治十二年の神社明細帳作成時に、安閑(あんかん)天皇を祭神として安閑神社と改称され、更に大正期に、向かい合う慈眼寺の鎮守八幡神社を合祀して、鴻池神社と呼ばれるようになりました。

本殿は、一間社流造り(いっけんしゃながれづくり)で、覆屋に納められ、宅地になっていますが前面に拝殿をそなえています。

昭和50年県の有形文化財の指定を受ける。鴻池稲荷祠碑と

稲荷祠碑は、405字の碑文から成り、鴻池家の生い立ち・伊丹の酒造りの歴史を知る手がかりとなるものです。更に碑文作成の事情も併せて記されています。

近世初頭、当地にお



伊丹市の北部に鴻池という町名の地区があり、現在では閑静な住り、宅地になっていますが江戸初期にはこの地においてはじめて清酒が造られ、わが国における清酒発祥の地ということが出来ます。



鴻池稲荷祠碑の説明風景

2017年7月度行事予定

進化する中之島 水都・大阪のシンボル フェスティバルシティ

月 日:平成29年7月13日(木)
集 合:朝日新聞大阪本社 13階 受付前ホール
訪 問 先:朝日新聞大阪本社・朝日新聞大阪工場
その他:1)雨天決行
2)詳細は別途配布資料を参照下さい。

2017年8月度行事予定

近代清酒発祥の地「大阪」の海の玄関 大阪市港区(海遊館)

月 日:平成29年8月10日(木)
集 合:海遊館 入り口前 集合時間:9:00
訪 問 先:海遊館・プレミアムバックヤード見学予定
その他:1)雨天決行
2)詳細は別途配布資料を参照下さい。